

令和4年度事業報告

令和4年度事業報告の概要

管理部門

就労支援グループ

もりときマーケット
ようこそ森と木ラボ
カフェハクナマタタ
ごんどう勝手堂
もりときピコ

通所支援グループ

自立サポート森と木
デイセンター風の森
モーリー農場
もりすけ
森と木 LIFE

生活支援グループ

ながの地域相談支援センターベターデイズ
森と木 365(短期入所)
森と木 365(居宅介護等)
森と木ホーム 365
グリーンハイツ稲田
こどもの自立生活館茜舎
茜舎くらぶ
こども発達支援センターBee

I. 令和4年度事業の概要

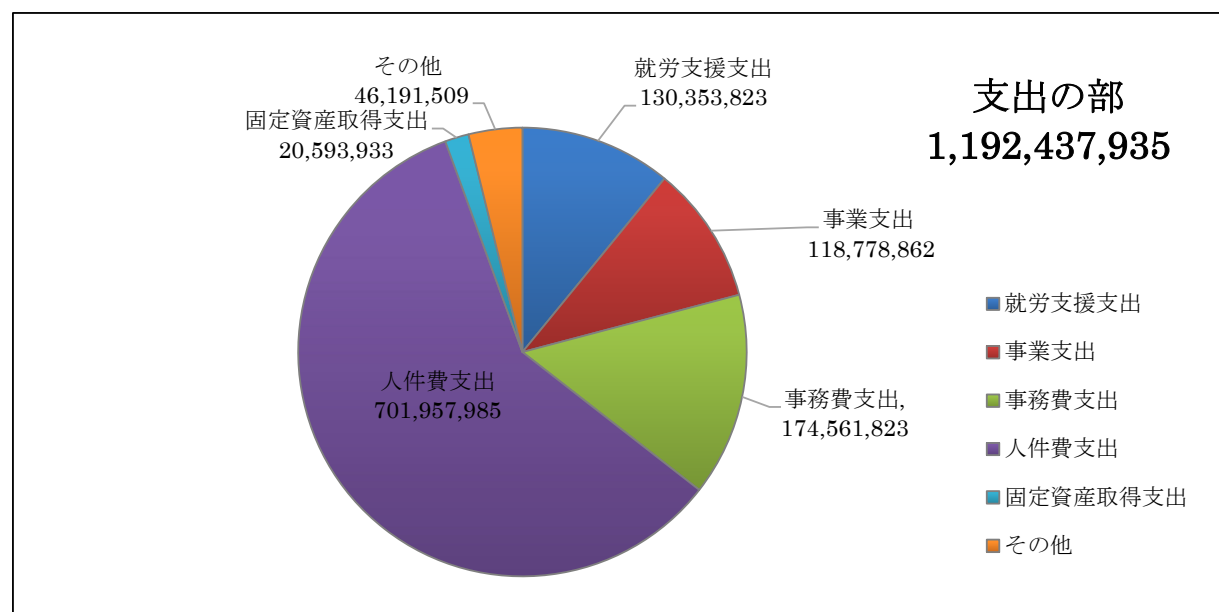
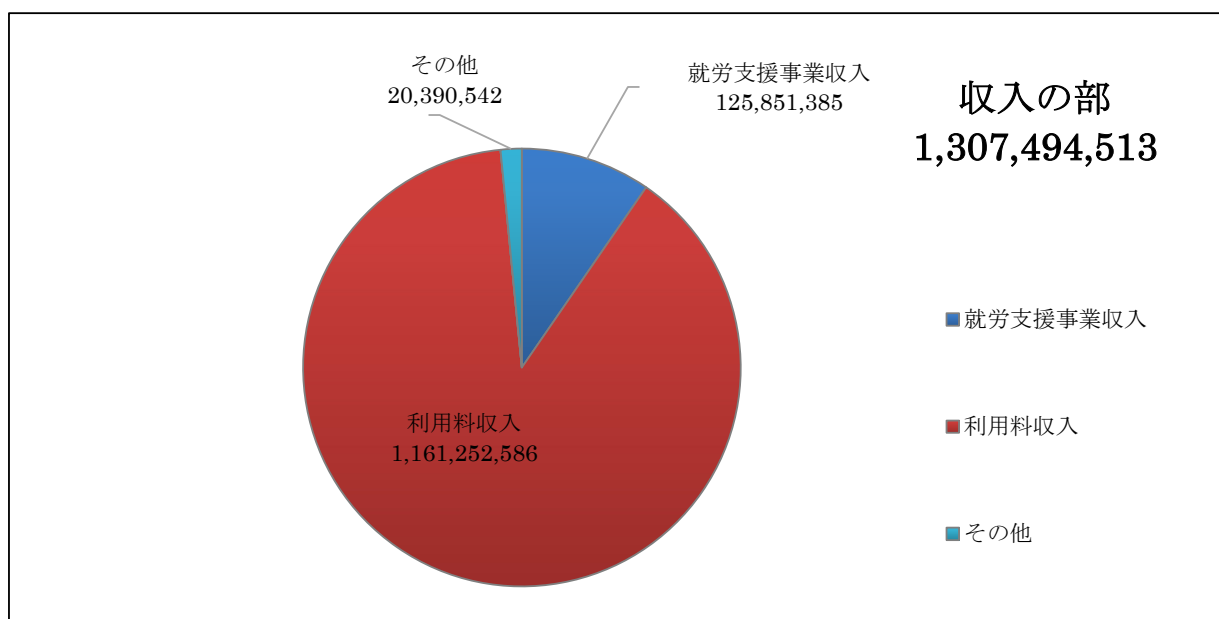
1. 総括

令和4年度においても前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症感染拡大が当法人で実施している福祉活動全般に大きな影響を及ぼした。特に令和4年7月から9月まで続いたいわゆる第6波には多数の利用者と職員が相次いで感染し、いくつかの事業所を一定期間閉鎖する事態に陥った。ただ、そのような状況の中においても各事業所での利用者の活動はそれ以前と比べて外出活動も含め活発に行われた。そして大きなトピックスとして、西洋料理店もりたろうが全国放送の人気グルメ番組に取り上げられたことで連日大賑わいとなり例年の倍近い売り上げとなった。

地域活動支援センター「ごんどう勝手堂」は、障害の概念の裾野の広がり念頭に、不登校、ひきこもり、ニートなど生き辛さを抱えた人の街の中の居場所になることを目指して長野市権堂に設置した。開所当初は運営方法等も手探り状態であったが、スタッフらの熱意により季節のイベント等を通して勝手堂に居心地の良さを感じてくれる市民の居場所となり登録者数も増加した。

また、労務関係では働き方改革の一環である同一労働同一賃金の実現に向けて就業規則等を整備し体制を整えてきた。

2. 決算の状況 ※令和4年度の資金収支状況



Ⅱ. 管理部門事業報告

令和4年度 法人本部

1. 理事会、評議員会、内部監査等

事業計画に基づき、予算執行の協議・検討を行い、安定かつ効果的な法人運営に努めた。

(1) 開催内容

	日時	審議内容	審議結果
内部監査	令和4年5月13日(金) 午後1時30分より	令和3年度事業・決算・利用者金銭管理監査	承認
第1回 理事会	令和4年5月22日(土) 午後1時30分より	第1号議案 令和3年度事業報告書(案)について 第3号議案 令和3年度決算書報告(案)について 第3号議案 評議員会の招集について	第1号議案:全会一致承認 第2号議案:全会一致承認 第3号議案:全会一致承認
第1回 評議員会	令和4年6月18日(土) 午後4時00分より	第1号議案 令和3年度決算書報告(案)について	第1号議案:全会一致承認
第2回 理事会	令和4年11月25日(金) 午後5時30分より	第1号議案 令和4年度補正予算(案)について	第1号議案:全会一致承認
役員懇談会	開催中止	—	—
第3回 理事会	令和5年3月4日(土) 午後1時30分より	第1号議案 令和5年度事業計画(案)について 第2号議案 令和5年度予算書(案)について 第3号議案 諸規定の変更について 第4号議案 評議員会の招集について	第1号議案:全会一致承認 第2号議案:全会一致承認 第3号議案:全会一致承認 第4号議案:全会一致承認

(2) 理事、監事、評議員等出欠状況

	日時	出席者	欠席者
内部監査	令和4年5月13日(金) 午後1時30分より	大池ひろ子・高坂亀美雄 白井千尋・岸田隆・奥村和枝	無
第1回 理事会	令和4年5月22日(土) 午後1時30分より	白井千尋・田中宗史・仁科研二・増田修史 岸田隆・奥村和枝・大池ひろ子・高坂亀美雄	無
第1回 評議員会	令和4年6月18日(土) 午後4時00分より	金澤敦志・武田るい子・寺澤小百合・寺沢博文 山本恭子・吉澤利政・白井千尋・岸田隆 奥村和枝・高坂亀美雄	村井郁子・大池ひろ子
第2回 理事会	令和4年11月25日(金) 午後5時30分より	白井千尋・仁科研二・増田修史・岸田隆 奥村和枝・大池ひろ子・高坂亀美雄	田中宗史
第3回 理事会	令和5年3月4日(土) 午後1時30分より	白井千尋・仁科研二・増田修史・岸田隆 奥村和枝	田中宗史・大池ひろ子 高坂亀美雄

2. 職員がいきいきと働き続けるための補助事業

職員がいきいきと働き続けるための補助事業を活用し、研修参加や資格取得、関係書籍等を購入し

職務の専門性を高めることができた。

研修内容・支給金額・利用人数

研修内容	支給金額	のべ利用人数
書籍購入費(関係書籍等 11 冊)	18,074 円	7 人
資格取得費	0 円	0 人
研修参加費	0 円	0 人
合計	18,074 円	7 人

3. 職員が法人理念を共有するための補助事業

職員が法人理念を共有するための補助事業を活用し、上司が部下の日頃の思いに耳を傾け部下が上司の理念や仕事に対する考えを学んだりするためのコミュニケーションの場を設けることにより若い職員やパートナースタッフの資質向上や職員間の法人理念の共有を深めることができた。

開催回数・支給金額

開催回数	支給金額	のべ利用人数
4 回	147,000 円	49 人

4. 新規職員採用試験実施状況

開催日	試験内容	受験者数	採用結果
令和 4 年 4 月 26 日(火)	筆記試験・面接	1 人	1 人
令和 4 年 8 月 20 日(土)	筆記試験・面接	1 人	1 人
令和 4 年 9 月 13 日(火)	筆記試験・面接	1 人	1 人
令和 5 年 1 月 28 日(土)	筆記試験・面接	10 人	2 人
令和 5 年 2 月 8 日(土)	筆記試験・面接	3 人	1 人
計	5 回	16 人	6 人

5. 職員研修の実施

職員のスキルアップを目指して、以下の通り内研修の実施、外部研修へ参加をした。

対象者	研修内容	人数
職員	全体職員研修(1 回)又村あおい氏による「知的障害のある人が親から独立して地域で当たり前前に暮らすために」の講義とグループワーク	39 人
職員	勤続年数に応じた研修(12 回)	43 人
パートナースタッフ	スタッフ研修(13 回)総括センター長による「障害のある人への虐待防止」の講義	286 人

6. 職員託児事業

職員託児事業を行い、育児休業を取得した職員のスムーズな職場復帰と乳幼児のいる職員の職場定着を図ることができた。

場所	ワンズハウス 2階 託児室
利用者数	4人
職員体制	保育士 1人/補助スタッフ 1名
開所日数	195日
開所時間	8:30～17:30
基本日課	

7. 苦情解決状況

苦情の内容		苦情の件数	結果		
1	施設運営に関すること	1件	6件	1 解決済	6件
2	施設管理等に関すること	0件		2 継続中	0件
3	支援に関すること	5件			
4	その他	0件			

8. 第3者委員報告会

日時	内容	出席者
令和5年3月1日(水) 午前10時より	令和4年度 苦情解決の状況について	矢下光子・白井千尋 岸田隆・奥村和枝

令和5年3月1日

令和4年度 苦情解決状況報告書

令和4年度における苦情を下記のとおり受付・解決しましたので、ご報告いたします。

記

受付日	事業所 (サービス)	苦情の内容	対応状況	解決 状況
4/22	こども発達支援 センターBee (児童発達支援)	通所時に足の裏の皮膚に小石が入り、その上に新しい皮膚が出来てきている状態を発見し母に伝えるが、施設で怪我などあった場合は通院してくれないのか?という問い合わせがある。	施設の活動中に起きた怪我などは程度によって通院すること、今回の場合は切開しないと取り出せない状況であり、その処置はこちらでは対応できない旨を説明する。	解決済
6/9	森と木ホーム 365 (共同生活援助)	住居の2階玄関階段から下りる際に発作があり、階段から転落し頬を骨折する事故があった。介護者の支援スキルや業務の引継ぎ不足についてご指摘を受け、また安全に過ごせるよう住まいの場所の移動についてご家族より話がある。	支援者には再度OJTをおこない、基本的な知識や介助方法の研修をおこなった。また居室を2階から1階へ移動した。	解決済
7/10	森と木ホーム 365 (共同生活援助)	ベッドのマットレスに排泄のシミや匂いが染みついていると保護者から苦情がある。	ベットメイキングの際はマットレスの確認も徹底する事をスタッフに周知した。	解決済
8/7	もりとき マーケット (就労継続支援 B型)	ご家庭からのノートに「帰りのバスから降りてくると、服装が乱れていることがある。たまにトイレを失敗していることもあるが、送り出しの時に対応してもらえていないのか」と苦情がある。	バス乗車前に身だしなみの確認をすること、退所前にトイレの声掛けをするなど再度スタッフで徹底した。	解決済
8/30	こども発達支援 センターBee	7月末に自宅で下痢した後に通所し、受入の際の会話の中でそのこ	通所の扱いについてや下痢などの症状があった際の対応について説	解決済

	(児童発達支援)	とが分かったのでそのままお帰りいただくことがあった。通所実績としたが、請求書を見たご家族から「ちょっと行っただけでも通所になるのか？」と問合せがある。	明をする。	
10/31	こどもの自立生活館茜舎 (放課後等デイサービス)	地附山公園に遊びに行った際、遊具の金属部に胸をぶつけたようで痛みの訴えがある。自宅に帰ってから腫れが見られ、眠れないほど痛みがあると連絡がある。	保護者と面談を実施。公園に行った際の遊び方や、怪我があった際の確認や報告の仕方などについて話をする。	解決済

上記の苦情解決状況報告書を確認しました。

令和5年3月1日

第三者委員氏名

矢下光子



事業報告書【令和4年度】			
事業所名	もりときマーケット	サービスの種類	就労継続支援B型
1. 総括	<p>レストランや喫茶店など店舗での仕事を通して、やりがいや誇りを感じながら充実した就業生活を送ることができるよう支援した。得意なことを活かしてスキルアップできるようにひとりひとりの作業内容を見直したり、視覚的にわかりやすいツールを提案するなど利用者それぞれに合った作業や支援を提供した。</p> <p>もりたろうは御開帳、TV取材の影響もあり利益増となった。コロナの落ち着きも見られ、集客数は昨年度よりも増加した。</p>		
2. 事業の内容	(1) 個別支援計画に沿った障害福祉サービス等の提供 個別支援計画に沿った就労継続支援B型支援を行った。		
	(2) 個別支援計画の作成 就労継続支援B型計画を作成し6か月に1回モニタリングのケア会議を開催した。		
	(3) その他の事業 健康診断、避難訓練、職員会議、ケース会議、余暇企画、研修旅行		
3. 職員数	管理者1名、サービス管理責任者1名、生活支援員3名、職業指導員1名、目標工賃達成指導員2名、看護師1名、嘱託医1名		
4. 利用者実績	1日平均 就労継続支援B型17名（定員20名）		
5. 開設時間	<p>曇り時々晴れ本店、曇り時々晴れ駅前店、西洋料理店もりたろう、ベジタボーラ：火曜～日曜 午前9:00～午後4:00</p> <p>ごはんの森、café morino..：月曜～金曜 午前9:00～午後4:00</p>		
6. 活動/作業内容	(1) 店舗の運営 レストラン、喫茶店等飲食店の運営をし、菓子製造、調理補助、接客、店外販売、清掃等の作業支援を行った。		
	<p>① もりたろう 売上43,062,964円、工賃総額950,400円、平均工賃15,840円/月</p> <p>② 曇り本店 売上11,302,864円、工賃総額506,565円、平均工賃11,257円/月</p> <p>③ 駅前店 売上12,347,772円、工賃総額148,545円、平均工賃13,504円/月</p> <p>④ café morino.. 売上7,335,766円、工賃総額176,130円、平均工賃14,678円/月</p> <p>⑤ ベジタボーラ 売上22,627,662円、工賃総額1,755,945円、平均工賃17,215円/月</p> <p>⑥ ごはんの森 売上35,570,800円、工賃総額1,581,075円、平均工賃14,640円/月</p>		
	(2) 余暇企画 店舗ごとに企画を計画したが、コロナの流行と重なるなど計画通りの運営は難しい状況が多かった。		
	(3) 研修旅行 曇り時々晴れ、もりたろう旅行：令和4年9月29日(木)～30日(金) 松本藍染体験 ベジタボーラ、ごはんの森旅行：コロナ第8波の影響で中止となった。		
(4) 店舗製品作り、アート活動 週に1日、希望により絵画などのアート活動を実施した。また、陶芸では店舗で使う皿やコーヒーカップなどを制作した。			
7. 単年度事業等	なし		

事業報告書【令和4年度】			
事業所名	ようこそ森と木ラボ	サービスの種類	自立訓練（生活訓練） 就労継続支援B型
1. 総括	<p>発達障害のある人を対象に、自己理解を深めながら将来のその人らしい自立生活を送っていただけることを目的に社会体験や学習活動等に取り組んだ。</p> <p>自立訓練事業では、個人で目標を決めて取り組む活動や仲間と目的を共有した共同活動、支援者との面談などを通して、周囲の人との信頼関係を築き自尊心を高めていけるように支援を行った。住民自治協議会等と連携イベントに参加する機会をつくることで、地域の人たちとの関係を築きながら、役割を持って社会へ参加していく経験とその喜びを感じられる活動を提供できた。また通所することが難しく、社会とのつながりを築きにくい人には訪問による支援も行った。</p> <p>就労継続支援B型事業では、個別の目標をもとに作業やアート、地域の高齢者サロンでのボランティアなどの活動に取り組みながら、一人ひとりが自分らしく社会参加をしていけるように支援を行った。また就労希望の方に対して実習や面接同行を行い、1名の就職を支援した。</p>		
2. 事業の内容	<p>(1) 個別支援計画に沿った障害福祉サービス等の提供 個別支援計画に沿った、自立訓練事業・就労継続支援B型事業を行った。</p> <p>(2) 個別支援計画の作成 自立訓練・就労継続支援計画を作成し3か月又は6か月毎にモニタリングのケア会議を開催した。</p> <p>(3) その他の事業 健康診断、避難訓練、職員会議、ケース会議</p>		
3. 職員数	管理者1名、サービス管理責任者1名、生活支援員2名、訪問支援員1名、職業指導員1名、		
4. 利用者実績	就労継続支援B型1日平均8名（定員10名）、自立訓練8名（定員10名）		
5. 開設時間	月曜日～土曜日 午前9:00～午後4:00		
6. 活動/作業内容	<p>(1) 個別活動 興味のあることをもとに一人ひとりが課題を決めて活動に取り組んだ。読書、アート、PCトレーニングなど達成感を感じられる活動となっていた。</p> <p>(2) 地域活動 毎月子育てサロンへのボランティアへ参加した。また、例年より回数は減ったが市民交流センター等地域のイベントに参加し販売を行った。役割を持って社会参加をし、そこで喜ばれる経験をすることで、大きな達成感を感じられる場となった。</p> <p>(3) 自分研究 テーマに沿って自分の気持ちを伝えたり相手の話を聞いたりしながら、自分自身や周りにいる仲間の理解を深める活動を行った。</p> <p>(4) 特別活動 ・長距離のウォーキングイベント「ラボウォーク」（6月2日～3日） ・飯縄山登山（10月5日）と有明山トレッキング（11月1日） ・子ども発達支援センターBee用七夕飾り制作 ・善光寺灯明祭りの切り絵製作・出展 ・1年間の活動発表の機会として「ラボ感謝祭」（3月10日～11日） 1つの目的に向けて協力し合いながら、仲間との関係を深められる機会となった。</p> <p>(5) スポーツ活動 体力づくりのために、球技やダンス、ウォーキングなどのスポーツに取り組んだ。</p> <p>(6) ワークトレーニング 企業での作業のイメージを持てるようになることを目的にして、協力・連携を取りながら作業を行った。（桜井甘精堂の箱折り、ネット販売の製品発送作業）</p> <p>(7) 職場見学、職業体験 就職に向けた支援として、ハローワークの同行支援や職場見学・職場体験（介護事業所等）、面接同行を行った。</p>		
7. 単年度事業等	なし		

事業報告書【令和4年度】			
事業所名	地域活動支援センター カフェハクナマタタ	サービスの種類	地域活動支援センターⅢ型 Sタイプ
1. 総括	<p>地域活動支援センター「カフェハクナマタタ」では、地域で暮らす障害のある人が安心して過ごせるための居場所を提供し、年間を通して多くの利用があった。個別相談を受付け、必要に応じて相談支援専門員や関係機関と連携をとり、次のステップへ移行するための支援も行った。今年は新しく相談日の予定を設け、悩みや不安をより相談しやすい支援を行った。</p> <p>地域の人たちと関係をつくり、ボランティアの育成や理解啓発のための取り組みとして、月に一度オープンカフェを行った。オープンカフェは感染が増加する時期は開催を控えたりしつつも、可能な時期は予防に留意しながら開催し、良い相互交流の機会となった。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大への利用者の方々の不安が大きく、飲食を控えてもらう対応をとりながら、地域のなかの居場所として運営を継続した。</p>		
2. 事業の内容	<p>(1) 憩いの場の提供「カフェハクナマタタ」の運営と相談支援</p> <p>(2) サークル活動の実施</p> <p>(3) 「相談日」の開催</p> <p>(4) 各種イベントの開催</p> <p>(5) 地域とつながり理解を広めるための活動「オープンカフェ」の実施</p> <p>(6) カフェ通信「だいじょうぶだぁ通信」の発行</p>		
3. 職員数	管理者1名、専門職員1名、指導員2名		
4. 利用者実績	1日平均20名		
5. 開設時間	火曜日～土曜日 午前10:00～午後7:00		
6. 活動/作業内容	<p>(1) 「カフェハクナマタタ」の運営と相談支援 誰でも立ち寄れる場所としてカフェを運営した。個別相談の支援も行い、相談支援機関と連携を図りながら、次のステップのための情報提供等を行った。</p> <p>(2) サークル活動 平日の夜間と土曜日の日中の時間帯に、料理・ゲーム・ダイエット・クラフト・将棋・スイーツサークルを行った。メンバーを固定して行い、同じ趣味を持つ人同士のつながりができ、楽しみを共有する関係が築けた。</p> <p>(3) 相談日 予定として「相談日」を設けることで、自分から相談を依頼しづらい人が、より気軽に悩みや不安、今後の生活のことなどを話せる機会になった。</p> <p>(4) 各種イベントの開催 喫茶店巡りやスポーツ、飲み会など、余暇を楽しむためのイベントを開催した。花見や夏祭りなど季節のイベントを楽しめる企画も行った。</p> <p>(5) オープンカフェ 理解啓発の取り組みとして、月一回、住民自治協議会や民生委員等と連携し、地域の人が集える場としてカフェを開放し、様々な人が訪れた。</p> <p>(6) だいじょうぶだぁ通信 2ヵ月に一度、カフェのイベントやお知らせを掲載した通信を発行し、利用者や相談支援機関、他事業所等に配布し、情報提供を行なった。</p>		
7. 単年度事業等	なし		

事業報告書【令和4年度】			
事業所名	ごんどう勝手堂	サービスの種類	地域活動支援センターⅢ型 Aタイプ
所在地	長野市大字鶴賀上千歳町 1336	電話番号	026-266-0355
拠点区分	ごんどう勝手堂	サービス区分	ごんどう勝手堂
1. 基本方針	<p>地域の中で、社会的な困難を抱えながら、行政機関や福祉機関、医療保健機関につながっていない人たちの、最初の足掛かりとなれるよう、誰もが気軽に立ち寄れるオープンな場所として、地域活動支援センターを運営した。</p> <p>ひきこもりも含めた広い意味での障害者が利用できるよう、ベターデイズとも連携を図りながらアウトリーチ（ニーズの発掘）に力点を置いて、さまざまな社会的困難（障害、ひきこもり、ニート、生活困窮、虐待等）にある人に対して、支援を届けられるようにした。</p>		
2. 事業の内容	<p>①居場所としてのカフェ運営</p> <p>②季節のイベント</p> <p>③アート展示</p>		
3. 職員数	①管理者：1名 ②支援員：3名以上		
4. 利用者実績	1日平均7名、登録者数80名		
5. 開設時間	月曜日～金曜日 午後11時～18時		
6. 活動内容	<p>①カフェの運営 グレイゾーンやひきこもり、ニートなど複合的な理由で社会生活に困難を抱え、社会とのかかわりを失いかけている人たちの居場所として、だれもが気軽に立ち寄れてゆっくり過ごせるカフェを運営した。既に福祉に繋がっている人の他に、高齢者や地域住民などさまざまな立場の人が訪れ、自然な形で相互の交流の場となった。ひきこもりの人の家族や不登校の児童が親子で訪れるケースなどもあり、福祉の入口として、ニーズの掘り起しにつながった。</p> <p>②季節のイベント (1)勝手にクリスマス 就学前のお子さんから90代のお年寄りまで幅広い年齢層のさまざまな立場の人が参加し、有意義なイベントとなった。 (2)第12回もんぜんまち劇場への参加 地域のイベントに参加し、ゲームやトーク、表現活動の様子をライブ配信した。 (3)ギャラリーツアージュアベリ場 少人数のトークイベントを開催しInstagramに動画を投稿した。なごやかな雰囲気でごろはおとなしい人も自分の話をする事ができた。</p> <p>③アート展示と創作活動 地域の作家やスタッフの作品を展示することから始まったが、次第に利用している人が、自分の作品も飾ってほしいと持って来てくれるようになり、作品数も増え、展示内容も多様なものになった。 七夕やハロウィン、クリスマス、正月、ひな祭りなど、季節のパネルを用意し、つぶやきを書いたものや、切り抜き、折り紙などを自由に貼り付けられるようにした。日ごとに内容が変わるパネルを見ながら話はずんだり、自主的な制作の機会となった。また、外の通りから見える場所にパネルを設置したことで、通りすがりの人の興味を誘い、地域活動支援センターを知ってもらう機会にもなった。</p>		
7. 単年度事業等	なし		

事業報告書【令和4年度】			
事業所名	もりときピコ	サービスの種類	放課後等デイサービス
1. 総括	<p>発達障害のある小学生、中学生、高校生を対象に、放課後や休日に安心して過ごせる場所を提供し、支援者や友達との信頼関係を築いたりコミュニケーション力や社会性を育むことを目的にしたプログラムで支援を行った。</p> <p>チャレンジャーズでは、トレッキングやスノーシューのチャレンジ企画を実施し、友達と協力したり挑戦したりする機会となった。</p> <p>またご家族や学校、病院等関係機関との支援会議を行い、連携を図り情報共有をしながら、ご本人が安心して活動できるように取り組んだ。</p> <p>コロナ感染が増加している時期は、活動内容を変更し、安全に配慮しながらサービスを提供した。必要以上に利用を制限することがないように、各家庭と連絡を取りながら状況を判断し、配慮をしながら支援を行った。</p>		
2. 事業の内容	(1)個別支援計画に沿った障害福祉サービス等の提供 個別支援計画に沿った、放課後等デイサービスの提供を行った。		
	(2)個別支援計画の作成 個別支援計画を作成し6か月毎にモニタリングのケア会議を開催した。		
	(3)その他の事業 健康診断、避難訓練、職員会議、学校訪問、ケア会議への参加、送迎サービス		
3. 職員数	管理者1名、児童発達支援管理責任者1名、児童指導員2名、保育士1名		
4. 利用者実績	1日平均9名（定員10名）		
5. 開設時間	月曜日～金曜日 午後2:30～午後6:30／土曜日 午前9:30～午後3:30		
6. 活動/作業内容	(1)学びタイム 宿題のサポートや本を読んだりする自習の時間を設け支援した。		
	(2)友だちタイム 調理や工作、ゲームなど集団活動に取り組むことを通して、友だちとの関わり方やルールを守ること、気持ちのコントロールの仕方などを実践的に学び、自信を高めていけるよう支援した。		
	(3)マイルーム 中高生を中心に個々に必要なスキルの向上や自己理解を促すために、個別の課題に取り組んだり、面談を行ったりした。		
	(4)クラブ活動 同じ趣味の仲間との関わりを楽しめるよう、アート、スポーツ、鉄道のグループに分かれて活動に取り組んだ。同じメンバーで集まる時間となり、関わりを深めながら共に楽しむ姿が見られた。		
	(5)チャレンジャーズ これまでしたことのないことに挑戦することを目的に、飯山七福神めぐり（5月28日、中高生対象）、茶臼山トレッキング（10月1日、小学生対象）、鍋倉高原スノーシュー（1月14日）を行った。		
7. 単年度事業等	なし		

事業報告書【令和4年度】			
事業所名	自立サポート森と木	サービスの種類	生活介護
1. 総括	特別支援学校を卒業した知的障害のある方を対象に様々な活動を行った。新型コロナウイルス感染拡大のため、通所の制限をさせていただいた時期もあったが、年3回チャレンジ企画は感染対策を徹底し泊りの企画を日帰り企画に変更するなどして行うことが出来た。利用者一人ひとりの状況に配慮をしながら、みなさんが達成感を感じられるような企画を行うことが出来、様々な成功体験を積み重ね自己肯定感を高めていけるよう支援を行うことが出来た。		
2. 事業の内容	(1) 個別支援計画に沿った障害福祉サービス等の提供 生活介護計画を作成し、それを基に定期的にモニタリングのためのケア会議を実施した。		
	(2) 個別支援計画の作成 生活介護計画を作成し、それを基に定期的にモニタリングのためのケア会議を開催した。		
	(3) その他の事業 健康診断 避難訓練 送迎サービス 職員会議 ケース会議等		
3. 職員数	管理者1名、サービス管理責任者1名、生活支援員17名、看護師1名、嘱託医1名		
4. 利用者実績	1日平均19名（定員20名）		
5. 開設時間	月曜日～土曜日 午前9:00～午後4:00		
6. 活動/作業内容	(1) 自立生活プログラム 季節の行事やエコバック作り等身近な生活に関わる内容をテーマに取り組んだ。チャレンジ企画前には事前学習を行い、企画への見通しを持ち、活動意欲を高めるプログラムに取り組んだ。		
	(2) 進路支援 利用者の希望や個別面談の内容に基づき、法人内外の事業所の情報提供等を行ってきた。今年度森と木から卒業される方はいないが、他事業所へ2名の方が実習に行っている。		
	(3) チャレンジ企画 7月8日 森と木登山（瑠璃山・毛無山） 8月25日 森と木キャンプ（長野市青少年錬成センター） 10月12日・13日 森と木ウォーク（長野→飯山）		
	(4) 作業活動 下請作業、製菓作業、和紙作り、プランターの植物栽培、花壇整備作業を実施した。		
	(5) アート活動 日々作られる作品から作品展や雑貨製作を行った。定期的な作品展を行った。SNSや口コミで繋がりを作り、他県等の雑貨店とも取引することがあった。		
	(6) サークル活動 調理、スポーツなどのサークル活動を行った。		
7. 単年度事業等	なし		

事業報告書【令和4年度】			
事業所名	デイセンター風の森	サービスの種類	生活介護
1. 総括	<p>コロナウィルス感染拡大のため、必要に応じて通所を制限しながらも活動を行った。作業活動はお菓子とクラフトとオリジナル商品の制作販売を行い、ひとりひとり得意なことや好きなことを活かし活動に取り組むことが出来た。作られた商品を法人店舗や他雑貨店でも販売した。季節を感じる活動は、コロナウィルス感染拡大の影響があり企画内容を変更しながらも可能な範囲で行った。身体面では健康に通所できるような環境に配慮したうえ、機能維持活動や休憩の取り方等一人一人の身体状況に合わせ提案し行った。</p>		
2. 事業の内容	(1) 個別支援計画に沿った障害福祉サービス等の提供 個別支援計画に沿った、生活介護支援を行った。		
	(2) 個別支援計画の作成 生活介護計画を作成し6か月毎にモニタリングのケア会議を開催した。		
	(3) その他の事業 健康診断、避難訓練、職員会議、ケース会議、ケア会議、送迎サービス		
3. 職員数	<p>管理者1名、サービス管理責任者1名、生活支援員14名、看護師1名、囁託医1名</p>		
4. 利用者実績	<p>1日平均18名（定員20名）</p>		
5. 開設時間	<p>月曜日～土曜日 午前9:00～午後4:00</p>		
6. 活動/作業内容	<p>(1) 作業活動 お菓子(ソフトクッキー)、木工(笑うBOX)、クラフト(あかんべー他)、個々に得意な作業工程を中心に取り組んだ。オリジナル製品は法人内の店舗へ納品したりイベントで販売した。それぞれ担当しているスタッフと意見を交わし、季節や活動環境等その時々に合わせて物づくりに取り組むことが出来ていた。</p>		
	<p>(2) 季節を感じる活動 コロナの影響もあり活動を制限しながらも、お花見や足湯、足水などを行った。毎年泊りで行うアゼイリア飯綱の忘年会旅行は日帰りで実行することが出来た。</p>		
	<p>(3) アート活動 描くことが好きな方中心にアート活動をする機会をつくり、施設内に展示したり作品展に参加したりすることが出来た。</p>		
	<p>(4) フリータイム企画 金曜の午後の映画鑑賞は定着しており毎週楽しみにする方も多かった。</p>		
	<p>(5) 地域とつながる活動 平林地区の地域清掃や歩道の草取りを行った。</p>		
	<p>(6) からだをつくる活動 個別の時間を設け、本人専用補助具等を使い体力維持活動をしたり身体を動かす機会を作ることができた。</p>		
	<p>(7) もりから堂運営 季節に合わせて様々なものを作り店内の装飾を行った。</p>		
7. 単年度事業等	<p>なし</p>		

事業報告書【令和4年度】			
事業所名	モーリー農場	サービスの種類	生活介護
1. 総括	<p>作業活動を通して地域の人とつながりをもち、その人らしくやりがいをもって充実した毎日を過ごせるよう支援をおこなってきた。企業からの仕事依頼も増え地域とのつながりを深めることができた。</p> <p>新型コロナウイルスの影響で企画していた社会体験プログラムは実施しなかったが、感染対策に十分配慮しながら日帰り旅行は実施した。</p>		
2. 事業の内容	(1)個別支援計画の作成 生活介護計画を作成し、6カ月に1回モニタリングのためのケア会議を開催した。		
	(2)個別支援計画に沿った障害福祉サービス等の提供 個別支援計画に沿った生活介護をおこなってきた。		
	(3)その他の事業 健康診断 避難訓練 送迎サービス 職員会議 ケース会議		
3. 職員数	管理者1名、サービス管理責任者1名、生活支援員11名、看護師1名、嘱託医1名		
4. 利用者実績	1日平均20名（定員20名）		
5. 開設時間	月曜日～土曜日 午前9:00～午後4:00		
6. 活動/作業内容	<p>(1)作業活動 グループに分かれて生産活動、販売活動をおこなってきた。</p> <p>① ジャム・ピクルスグループ 県内産の原材料を使用したオリジナルジャム・ピクルスの製造・販売をおこなった。また農家と契約をし、原材料の仕入れをした。また、販売先も増えより多くの方に商品を知ってもらえる機会ができた。</p> <p>② トマトケチャップグループ 年間を通してトマトケチャップを製造し、販売をした。県外からの定期的に注文が入り発送作業もおこなった。</p> <p>③ しいたけグループ 原木しいたけを栽培し、生しいたけの販売をおこなった。夏～秋はしいたけ山作業を行い、冬～春はハウス内で栽培し収穫、販売した。</p> <p>④ 畑グループ 徳間、三才、上駒沢の圃場を作業場所として、無農薬で加工用トマトの栽培や雑穀の栽培をおこなった。また、ピクルス、ケチャップに使用する野菜の収穫や販売目的としての野菜の栽培もおこなった。</p> <p>⑤下請けグループ 箱折りや基盤のシールはがしなど企業からの受託作業をおこなった。</p>		
	<p>(2)社会体験プログラム 作業グループごとに余暇活動を企画していたが、コロナウイルスの影響のため実施しなかった。</p> <p>日帰り旅行を計画し県内旅行を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 樽池高原トレッキング 10月21日 ・ うみがたり旅行：11月10日、12月16日 ・ 碓氷峠鉄道文化村旅行：11月24日 ・ 松本旅行：12月19日 ・ 諏訪旅行：2月14日 ・ 上田旅行：2月21日 		
	<p>(3)アート活動 毎週火曜日の午後に、個別の活動として、陶芸や絵画などのアート活動をおこなった。</p>		
7. 単年度事業等	なし		

事業報告書【令和4年度】			
事業所名	もりすけ	サービスの種類	生活介護
1. 総括	<p>作業活動を通して地域の人とつながりをもち、その人らしくやりがいをもって充実した毎日を過ごせるよう支援をおこなってきた。企業からの仕事依頼も増え地域とのつながりを深めることができた。</p> <p>新型コロナウイルスの影響で企画していた社会体験プログラムは実施しなかったが、感染対策に十分配慮しながら日帰り旅行は実施した。</p>		
2. 事業の内容	<p>(1) 個別支援計画の作成 生活介護計画を作成し、6カ月に1回モニタリングのためのケア会議を開催した。</p> <p>(2) 個別支援計画に沿った障害福祉サービス等の提供 個別支援計画に沿った生活介護を行ってきた。</p> <p>(3) その他の事業 健康診断 避難訓練 送迎サービス 職員会議 ケース会議</p>		
3. 職員数	管理者1名、サービス管理責任者1名、生活支援員14名、看護師1名、		
4. 利用者実績	1日平均17名（定員20名）		
5. 開設時間	月曜日～土曜日 午前9:00～午後4:00		
6. 活動/作業内容	<p>(1) 作業活動 グループに分かれて生産活動、販売活動を行った。</p> <p>① 焼菓子グループ 無農薬栽培にこだわった雑穀や小麦等の材料を使用し、健康に配慮したグルテンフリーのオリジナル焼菓子の製造と販売を行った。定期的な販売活動を行い、地域とのつながりを深めていくことができた。</p> <p>② 下請けグループ 箱折り作業、基盤のシールはがし、かご拭きなど企業からの受託作業を行った。</p> <p>③ しいたけグループ 原木しいたけを栽培し、生しいたけの販売をおこなった。夏～秋はしいたけ山作業を行い、冬～春はハウス内で栽培し収穫、販売した。</p> <p>(2) 社会体験プログラム 作業グループごとに余暇活動を企画していたが、新型コロナウイルスの影響のため実施しなかった。</p> <p>日帰り旅行を計画し県内旅行を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 樽池高原トレッキング 10月21日 ・ うみがたり旅行：11月10日、12月16日 ・ 碓氷峠鉄道文化村旅行：11月24日 ・ 松本旅行：12月19日 ・ 諏訪旅行：2月14日 ・ 上田旅行：2月21日 <p>(3) アート活動 毎週火曜日の午後に、個別活動として絵画のアート活動をおこなってきた。</p>		
7. 単年度事業等	なし		

事業報告書【令和4年度】			
事業所名	森と木 LIFE 森と木 365 デイフロア	サービスの種類	生活介護
1. 総括	行動障害がある自閉症の方や、重い知的障害があるため、人との関わりや日常生活に困難を抱えている方を主な対象として、構造化された環境や日課を提供し、安心して社会生活を送るための支援について検証・確立すると共に、無理のない範囲で人と関わることに慣れていく機会を提供することを目的として活動を行った。		
2. 事業の内容	(1) 個別支援計画に沿った障害福祉サービス等の提供 個別支援計画に沿った、生活介護を行った。		
	(2) 個別支援計画の作成 生活介護計画を作成し6か月毎にモニタリングのケア会議を開催した。		
	(3) その他の事業 健康診断、避難訓練、職員会議、ケース会議		
3. 職員数	管理者1名、サービス管理責任者1名、生活支援員20名、看護師1名、嘱託医1名		
4. 利用者実績	1日平均20名(定員20名)		
5. 開設時間	月曜日～土曜日 午前9:00～午後4:00		
6. 活動/作業内容	(1) 活動拠点とそれぞれの目的 森と木 LIFE では、利用者の障害特性や許容できる刺激のレベルに合わせたフロアに分け、それぞれで活動した。環境を整備して構造化を図り、分かりやすい日課を提示したり、落ち着くことのできる環境を用意したり、気になる物を極力減らしたりするなどの支援を行なった。 森と木 365 デイフロアでは、ひとりひとりのペースに合わせて作業や趣味的な活動に取り組み、安心して活動できる環境を確保しつつ社会との繋がりを意識した活動を行った。		
	(2) 個別に合わせた活動 空き缶リサイクル、企業からの受注作業、課題活動、絵画などのアート活動、ウォーキング等に取り組んだ。		
	(3) 余暇的な活動 カフェ活動は、コロナウイルス感染予防のため、昼食時に個別にお菓子やジュースを提供しました。 日帰り旅行 ・諏訪ダックツアー：7月15日 ・富士見高原リゾート：9月15日 コロナウイルスの影響で他の企画は実施できなかった。		
	(4) ケースカンファレンス アセスメントのために、利用者の方の好きな活動を検討し、個別にウォーキングやパソコンでのインターネット、お菓子製造などの個別の支援をおこなった。また、スタッフ間で振り返りをおこない、利用者の方の様子の共有に努めた。ただ、人員配置の関係もあり、通所されている全員が個別の時間をとることは難しかった。		
7. 単年度事業等	なし		

事業報告書【令和4年度】			
事業所名	ながの地域 相談支援センター バナーデイズ	サービスの 種類	長野市児童発達相談支援事業 長野市障害者虐待防止・差別解消相談支援事業 長野県障がい児等療育支援事業 長野県発達障がいサポート・マネージャー整備事業 指定一般相談支援事業（地域移行、地域定着） 指定特定障害者相談支援事業・障害児相談支援事業 長野市ケアプラン作成事業
1. 総括	<p>長野市からの委託相談2事業、長野県からの委託相談2事業、指定特定障害児・者相談支援事業を中心に運営を行った。</p> <p>長野市児童発達相談支援事業では、家族だけでなく保健センターや児童相談所、園、学校などの関係機関からの相談を受け付けた。相談内容としては児童発達支援や放課後等デイサービス等の障害福祉サービスの利用希望の相談が多かった。児童相談所等が関与する困難ケースでは、養育の困難さを抱える家族や家族全体の支援が必要なため多職種との連携が必要となった。</p> <p>長野市障害者虐待防止・差別解消相談支援事業では、通報・相談の受付とともに、虐待防止研修や出前講座を行った。施設従事者の研修への参加が増加してきており虐待防止への意識や関心が高まってきたように感じる。差別解消では民生委員を中心に出前講座の依頼が多かった。企業からの依頼も1件あった。</p> <p>長野県障がい児等療育支援事業では長野圏域北部を担当し、園への訪問や就学前の子どもの発達や子育て、療育等の相談を受け付けた。他機関との連携の会議の中では医療的ケア児や特別支援教育での課題について検討した。家族等対象の勉強会では「ゆったりリズム」を企画し多くの参加があった。</p> <p>発達障がいサポート・マネージャー整備事業では、福祉、学校、医療等の支援者からの相談があり、関係機関とつながりを持ちながら相談支援の体制作りを行った。長野圏域の自立支援協議会で、地域の行動障害の現状について調査、研究を行うため「行動障害に係るワーキング」を設置した。</p> <p>特定障害児・者相談支援事業では、契約者数は623名となった。困難なケースでは障害福祉サービスでは対応できず難航するケースもあり、支援の方法について関係機関との検討や調整を行った。</p>		
2. 事業の内容	<p>(1) 長野市北部発達相談支援センター（長野市児童発達相談支援事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長野市在住の障害児とその家族を対象に相談支援を行った。また、長野市障害ふくしネットに参加し地域課題を検討した。 ・長野市障害児発達支援研修啓発業務を受託し、市民を対象とした障害理解の研修会として長野ロキシーにて映画の上映を企画し開催した。185名の参加があった。 ・相談件数：2500件（内訳）訪問支援：163件、同行：87件、来所相談：201件、電話相談：1485件、メール相談：305件、個別支援会議：221件、関係機関：38件 ・ふくしネットへの参加：44件、センター関係会議：34件、各種会議・研修会参加：21件、講師・助言研修：8件 <hr/> <p>(2) 長野市障害者権利擁護サポートセンター（長野市障害者虐待防止・差別解消相談支援事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者虐待及び障害者差別に関する相談受付を行った。（67件） ・長野市障害者虐待防止・権利擁護研修会の実施 <ul style="list-style-type: none"> 第1回 講演会「障害者の虐待防止について」講師：植草学園大学副学長 野沢和弘氏 参加者：51法人 283名 第2回 講演会とグループワーク「障害者支援での虐待リスク」講師：全日本手をつな 		

	<p>ぐ育成会連合会常務理事兼事務局長 又村あおい氏 参加者：47 法人 176 名</p> <p>第3回 講演会「障害者虐待防止と意思決定支援」講師：上智大学総合人間科学部社会福祉学科特任教授 大塚晃氏 参加者：54 法人 103 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者虐待防止に関する出前講座を障害福祉事業所向けに行った。(11 回) ・ 障害理解や差別解消に関する出前講座を民生児童委員や企業向けに行った。(5 回) ・ 長野市障害ふくしネットやさしいお店プロジェクトの事務局として、差別解消法の啓発活動である「長野市障害者にやさしいお店登録制度」の広報を進めた。 ・ 相談件数：67 件（内訳）訪問支援：0 件、来所相談：5 件、電話相談：39 件、メール相談：9 件、個別支援会議：3 件、関係機関：7 件 その他：3 件
	<p>(3) 長野県障がい児等療育支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 長野圏域内の在宅の障害児を対象に、家族や関係機関からの相談受付を行い必要に応じ療育支援や障害福祉サービスの情報提供を行った。また、園訪問を行い療育に関わる支援方法の指導や検討を行った ・ 長野圏域内の市町村委託のこども担当の相談員間での地域の自立支援協議会の情報交換や児童に関する地域の実態や課題を共有し検討の場として、長野圏域こども相談支援連絡会を年4回開催した。 ・ 障害のある子どもを持つ親御さんを対象にした学習会「ゆったりリズム」の実施(3回) ・ 相談件数：9028 件（内訳）訪問支援：285 件、同行：387 件、来所相談：94 件、電話相談：1813 件、メール相談：1171 件、個別支援会議：3118 件、関係機関：1734 件、その他：426 件
	<p>(4) 発達障がいサポート・マネージャ整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 長野圏域を対象に、発達障害のあるご本人や、家族の相談支援を行っている支援者からの相談を受け、福祉サービスの利用や支援の方向性の検討を行った。医療、教育、福祉の専門機関がそれぞれの役割を理解しつつの緩やかな繋がりを広めることができた。 ・ 相談件数：270 件（内訳）個別支援：132 件、会議等出席 138 件
	<p>(5) 地域定着支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サテライト型グループホームから自立生活援助サービスを利用後、単身生活に移行した4名を対象に常時の連絡体制を確保し必要に応じて支援を行った。
	<p>(6) 指定特定障害者相談支援事業・障害児相談支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害児・者からの相談、アセスメントから、抱えている課題に対する適切な障害福祉サービスの調整を行いサービス等利用計画を作成し、継続的にモニタリングを行った。 ・ 計画相談件数 <p>障害児：障害児支援利用計画：207 件、継続サービス利用支援：255 件、 障害者：サービス等利用計画作成：319 件、継続サービス利用支援 570 件</p>
3. 職員数	管理者 1 名、長野市委託相談員 3 名、療育コーディネーター 2 名、発達障がいサポート・マネージャ 1 名、相談支援専門員 8 名
4. 開設時間	月曜日～金曜日 午前 8：30～午後 5：30
5. 単年度事業	なし

事業報告書【令和4年度】			
事業所名	森と木 365	サービスの種類	短期入所
1. 総括	<p>令和4年度は新型コロナウイルス（オミクロン株）感染症の流行に伴い、8月下旬から9月上旬にかけて職員の感染が増えたことで1週間ほど最低限の人数での受入をしたことや、第6波、第7波の影響で利用者のキャンセルが多くなった。</p> <p>引き続き、市内及び近隣市町村の障害者支援施設での短期入所受入中止の影響も大きく、新規利用者の見学、相談があり、在宅生活をしている障害のある人の家族の介護負担軽減などのニーズにこたえながら宿泊の支援を行った。</p> <p>利用者の処遇については、身体、その他の状況及びその置かれている環境に応じて、入浴、排せつ及び食事等の介助ができるよう職員を配置し、適切かつ効果的に行った。</p>		
2. 事業の内容	<p>(1) サービス等利用計画に沿った短期入所の提供 サービス等利用計画に沿って短期入所サービスの提供を行った。</p>		
	<p>(2) その他の事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・送迎サービスを実施した。 ・利用者の支援会議に参加し、サービスの調整を行った。 		
3. 職員数	管理者1名、生活支援員3名		
4. 利用者実績	<p>(1) 1日平均：7.5名（定員18名）</p> <p>(2) 契約者数：170名</p> <p>(3) 緊急受入数：21日（延利用人数：7名）</p>		
5. 開設時間	月曜日～日曜日		
6. 活動/作業内容	<p>(1) 日常生活上の介助、支援 支援計画に基づき、食事、入浴、着替え等の支援を行った。</p>		
	<p>(2) 自立生活に向けた相談、助言 ご本人やご家族から、将来の自立生活についての相談を受け、助言を行った。</p>		
7. 単年度事業等	なし		

事業報告書【令和4年度】			
事業所名	コミュニティケアセンター 森と木 365	サービスの種類	居宅介護(身体、通院)・行動援護、移動支援、市町村タイムケア、長野市障害児自立サポート、独自サービス
1. 総括	<p>行動援護事業、市町村移動支援事業の実施要綱に基づき、障害のある大人の方を対象に、平日の夕方の時間や休日に必要な支援を受けながらあらゆる社会体験を通して自己実現・自己選択・自己決定の機会を得られるよう多様なサービスの提供を行った。また、ホームで生活している重度の身体障害、行動障害のある方への身体介護や引きこもりや障害特性から自宅から出る事が難しい人に対し、居宅での起床支援や外出のサポートをおこない、自分らしく生活が送れるよう居宅介護事業の提供を行った。</p> <p>今年度は新型コロナウイルス（オミクロン株）感染者の増加に伴い、職員の感染も増え、8月下旬から9月中旬まで外出企画の内容変更や中止をすることとなった。事業計画通りとはいかなかったものの、できる範囲の中で活動を充実させ、利用者には楽しんで参加してもらう事ができた。</p> <p>タイムケア、自立サポート、独自サービスについては、在宅で生活されている方の一時的な預かりや緊急時の預かり、介護軽減等を目的にサービスの提供を行った。</p>		
2. 事業の内容	<p>(1) 市町村移動支援事業、行動援護事業の実施 平日の夕方や週末に余暇活動の提案をし、参加者に適切な支援を行った。また、集団が苦手な方には個別外出を提案し、社会参加の機会を提供した。</p> <p>(2) 居宅介護 在宅で生活されている方やケアホームで生活されている方を対象に、居宅介護等計画に沿った身体介護や家事援助の提供を行った。また、定期通院などには通院等介助の提供を行った。</p> <p>(3) 市町村タイムケア 障害のある方にご家庭等で介護できないときに、一時的な預かりや緊急時の預かりなどを行った。</p> <p>(4) 長野市障害児自立サポート 障害のある子どもが、地域で充実した生活を送りながら、将来の自立に向けた様々な体験ができるよう支援を行った。</p> <p>(5) 法人独自サービス 病院の付添等福祉サービスが使えない場合や、タイムケア・自立サポートの上限数を超過してしまった場合などに、利用者の実費負担でサービスの提供を行った。</p> <p>(6) その他の事業 送迎サービス</p>		
3. 職員数	管理者 1 名、サービス提供責任者 2 名 ヘルパー18 名		
4. 利用者実績 (月平均)	身体介護 236.1 時間、通院等介助 36.9 時間、家事援助 9.5 時間 行動援護 175.0 時間、移動支援 270.8 時間 タイムケア 690.3 時間、自立サポート 210.3 時間、独自事業 18.4 時間		

5. 開設時間	365 日 24 時間
6. 活動/作業内容	<p>(1) サークルQ：土曜日 毎週土曜に外出企画を設け、定員 5 名程度の参加者に余暇支援の提供を行った。多くの人に参加してもらえるよう各年齢層に応じた活動を提案し、余暇活動の提供を行った。新型コロナウイルスの感染状況に応じて、活動場所や活動時間を変更しながら、外出活動の提供を行った。</p> <p>(2) 大人倶楽部：日曜日、祝日 13 企画 81 名の利用者に対し、1 グループ 5 名程度の利用者で年 2 回の活動を計画したが、新型コロナウイルス感染者の増減に合わせて、活動場所と活動時間を変更しながらサービスの提供を行った。また、活動の際には感染症予防を徹底しながら外出企画を提供した。</p> <p>(3) アフター 5：平日火曜日から金曜日 3 名から 8 名程度の利用者に対し、夕方 5 時から 7 時 30 分の時間帯に、(火)カラオケサークル、(水)歌サークル、(木)バスケットボール、バドミントン、(金)料理サークルの活動を提供した。昨年度に引き続き公民館の調理室は利用できなかったが、体育館などは利用再開となったため、社会体育館を予約し地域の中でサービスの提供をおこなった。</p> <p>(4) 居宅介護(身体介護、通院介助、家事援助) 在宅で暮らしている方やグループホーム入居者を対象にヘルパーを派遣し、サービスの提供を行った。</p> <p>(5) 行動援護・移動支援 日中の外出活動(外食・プール・買物・散髪等)の要望を受け、サービスの提供を行った。</p> <p>(6) タイムケア 日中の一時預かりや緊急時のレスパイトケアの受入、短期入所を利用する前の体験利用といった、個々の目的に合わせて 365 での受入、支援を行った。</p> <p>(7) 長野市障害児自立サポート 障害児通所支援事業所の営業時間外の時間帯や休日に、長野市内の児童に対してサービスの提供を行った。</p>
7. 単年度事業等	なし

事業報告書【令和4年度】			
事業所名	森と木ホーム 365	サービスの種類	共同生活援助 自立生活援助
1. 総括	<p>令和4年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、職員や利用者の感染が増えたことで利用者の生活に大きな変化があった年だった。</p> <p>手洗い・うがい・マスク着用、3密を避けるなどの徹底を図り、出来る限りの予防対策をおこないながら支援をおこなう事に努めた。</p> <p>利用者が地域の中で日常生活または社会生活を営むことができ、より豊かな生活を送れるよう、きめ細やかな支援を行った。</p> <p>2名の方が自宅から共同生活援助へ移行した。また一人暮らしへの希望の聞き取りや生活能力のアセスメントを実施し、1名の方がサテライト型ホームへ移行し、共同生活援助から自立生活援助へ1名の利用者が移行した。また1名は1人暮らしへの移行している。</p>		
2. 事業の内容	<p>(1) 共同生活援助計画の作成 6ヶ月に1度、共同生活援助計画の見直しを行い必要に応じて変更を行った。</p> <hr/> <p>(2) 生活支援 支援計画に基づき、食事、入浴、着替え等の支援を行ったほか、食事の提供や、掃除の支援、余暇時間の活動提案など、利用者1人ひとりの個別支援計画に沿ったサービスを提供した。</p> <hr/> <p>(3) 自立生活に向けた相談、助言 ご本人やご家族から将来の自立生活についての相談を受け、助言を行った。</p> <hr/> <p>(4) その他の事業 職場や通所先で健康診断を受けることができない利用者の方向けに、10月に長野県健康づくり事業団による健康診断を実施した。また、希望者には新型コロナウイルスのワクチン接種やインフルエンザの予防接種、歯科検診の機会を提案し、ヘルパー事業所と連携しながら健康管理に努めた。</p>		
3. 職員数	管理者1名、サービス管理責任者3名、世話人35名、生活支援員68名 地域生活支援員1名		
4. 利用者実績	共同生活援助 1日平均86名（定員104名） 自立生活援助 1日平均 3名 同行支援：3件		
5. 開設時間	365日		
6. 活動/作業内容	<p>(1) 日常生活上の介助、支援 個別支援計画に基づき、食事、入浴、着替え等の支援を行った。</p> <hr/> <p>(2) 余暇等の社会参加の支援 個別支援計画に基づき、移動支援サービスや各種イベント等への参加等を提案し、必要に応じて予約などの手続きを行った。</p>		

	<p>(3)健康管理 体調不良や定期通院等必要に応じて通院に付き添い、医療機関との連携を図りながら日々の健康管理に努めた。</p> <p>(4)夜間巡回の実施 毎日 16 時～21 時の間に夜間巡回を実施し、入居者の生活状況を把握すると同時に世話人、生活支援員と情報交換を行い、連携を図った。</p> <p>(5)金銭管理 当法人では金銭管理を基本的に行わない方針であるが、ご家族による金銭管理が難しい場合や、社会福祉協議会の日常生活自立支援事業の契約が難しい利用者 4 名において法人金銭管理規定に基づき金銭管理を実施した。</p>
7. 単年度事業等	なし

共同生活住居の状況

(1) 利用者の状況

- ①構成：男性 73 名、女性 27 名（うちサテライト型住居：男性 1 名、女性 4 名）
- ②平均年齢：38.8 歳
- ③平均支援区分：4.1

(2) 共同生活住居名および定員

住居名	所在地	定員	現員
みわ	長野市三輪	5 名	5 名
ぼるて平林A	長野市平林	4 名	4 名
ぼるて平林B	長野市平林	4 名	4 名
サンディ東和田	長野市東和田	7 名	7 名
パル平林	長野市平林	5 名	4 名
アルファ東和田 I	長野市東和田	6 名	6 名
メゾン浅川 A	長野市浅川	6 名	6 名
メゾン浅川 B	長野市浅川	6 名	6 名
アルファ東和田 II	長野市東和田	6 名	6 名
メゾン浅川 II	長野市浅川	4 名	2 名
サンハイム稲田 A	長野市稲田	5 名	5 名
サンハイム稲田 B	長野市稲田	4 名	4 名
ハイツもりた	長野市高田	6 名	5 名
グリーンハイツ稲田	長野市稲田	6 名	6 名
グリーンハイツ稲田イースト	長野市稲田	7 名	7 名
エクセリーナ森と木 A	長野市稲田	5 名	5 名
エクセリーナ森と木 B	長野市稲田	5 名	5 名
ノース稲田 A	長野市稲田	4 名	4 名
ノース稲田 B	長野市稲田	4 名	4 名
サテライト型住居 (5 所)	長野市内	5 名	5 名

事業報告書【令和4年度】			
事業所名	グリーンハイツ稲田	サービスの種類	短期入所
1. 総括	グリーンハイツ稲田では児童養護施設、精神科病院などを退所したが家庭での生活が困難な障害児・者に対し、地域移行のためのアセスメントと必要な支援を検討・実施することを目的に、短期入所のサービスを提供した。利用者の身体、その他の状況及びその置かれている環境に応じて、入浴、排せつ及び食事の介助、その他の必要な相談支援等を行った。		
2. 事業の内容	(1) 個別支援計画に沿った障害福祉サービス等の提供 ケアプランに沿って短期入所サービスの提供を行った。		
	(2) その他の事業 送迎サービス、支援会議への出席		
3. 職員数	管理者 1 名、生活支援員 1 名		
4. 利用者実績	短期入所 1 日平均 0.36 名（定員 2 名）※契約者数 3 名		
5. 開設時間	月曜日～日曜日		
6. 活動/作業内容	(1) 日常生活上の介助、支援 支援計画に基づき、食事、入浴、着替え等の支援を行った。		
	(2) 自立生活に向けた相談、助言 ご本人やご家族から、将来の自立生活についての相談を受け、助言を行った。		
7. 単年度事業等	なし		

事業報告書【令和4年度】			
事業所名	こどもの自立生活館茜舎	サービスの種類	放課後等デイサービス
1. 総括	<p>児童福祉法で定められた放課後等デイサービスの提供を行った。学齢期の障害のある子どもたちを対象に、放課後や休日に年齢相応の様々な社会体験を積み重ねられるよう低学年と高学年の2グループに分かれて活動を企画・実施した。</p> <p>また、家族への支援として介護軽減、緊急時に対応できる体制も整え、障害のある子ども達を地域で支えるための支援を行った。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のための分散登校やまん延防止等重点措置が実施されていた期間においては、安全に配慮しながら日中のサービスを提供し、各家庭と連絡を取りながら緊急時における個々に必要な支援を行った。</p>		
2. 事業の内容	(1) 個別支援計画に沿った障害福祉サービス等の提供 個別支援計画を作成し6か月毎にモニタリングのケア会議を開催した。		
	(2) 個別支援計画の作成 個別支援計画に沿った、放課後等デイサービスの提供を行った。		
	(3) その他の事業 送迎サービス、避難訓練、茜舎説明会、個別面談		
3. 職員数	管理者1名、児童発達支援管理責任者1名、保育士2名、児童指導員1名、指導員3名		
4. 利用者実績	1日平均10名（定員10名）		
5. 開設時間	月曜日～金曜日 午後2:30～午後6:30 土曜日等学校休業日 午前9:30～午後3:30 ※緊急時の対応として、365日24時間の体制を確保		
6. 活動/作業内容	<p>(1) 茜舎プログラム 小学校1年生～4年生、小学校5年生～高校1年生の2グループに分け、主に平日の放課後にそれぞれ、クラフト制作やお菓子・料理作り、室内レクリエーションや買い物など、日ごとにプログラムを企画・実施し、様々な遊びや社会体験に触れられる機会を提供した。また、長期休暇については特別プログラムを実施し、水遊びやデイキャンプなどの活動を行った。</p>		
	<p>(2) 土曜日プログラム 休日を一日利用し、市外の大きな公園やショッピングモールなどに出かけたり、お弁当を持ってピクニックに出かけたりと、普段はできないレジャーを楽しめるようにプログラムを企画・実施した。また、カラオケやボウリングなど、年齢相応の休日の過ごし方を同年代の仲間と一緒に体験できるようにプログラムを企画・実施した。</p>		
7. 単年度事業等	なし		

事業報告書【令和4年度】			
事業所名	茜舎くらぶ	サービスの種類	放課後等デイサービス
1. 総括	<p>児童福祉法で定められた放課後等デイサービスの提供を行った。学齢期の障害のある子どもたちが、放課後・休日に年齢相応の様々な社会体験を積み重ねられるよう、曜日ごとにテーマを決めた「部活動」を通して、一人ひとりが目標をもって活動に参加できるよう支援をおこなった。主な活動場所として地域の施設を使用し、地域住民等とも触れ合える機会を積極的に作ってきた。</p> <p>併せて、医療的ケアなどを必要とする子どもが安心して過ごせる施設として環境整備を行い、受け入れを行ってきた。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のための分散登校やまん延防止等重点措置が実施されていた期間においては、安全に配慮しながら日中のサービスを提供し、各家庭と連絡を取りながら緊急時における個々に必要な支援を行った。</p>		
2. 事業の内容	(1) 個別支援計画に沿った障害福祉サービス等の提供 個別支援計画を作成し6か月毎にモニタリングのケア会議を開催した。		
	(2) 個別支援計画の作成 個別支援計画に沿った、放課後等デイサービスの提供をおこなった。		
	(3) その他の事業 送迎サービス、茜舎説明会、個別面談		
3. 職員数	管理者1名、児童発達支援管理責任者1名、保育士1名、児童指導員3名		
4. 利用者実績	1日平均9名（定員10名）		
5. 開設時間	<p>月曜日～金曜日 午後2:30～午後6:30</p> <p>土曜日、学校休業日 午前9:30～午後3:30</p> <p>※緊急時の対応として、365日24時間の体制を確保</p>		
6. 活動/作業内容	<p>(1) 部活動 放課後の時間に（月）ダンス部、（火）クッキング部、（水）バス鉄道研究部①、（木）バス鉄道研究部②、（金）アートワーク部、（土）土曜日プログラムを実施した。それぞれ目標を持って活動に取り組んできたが、新型コロナウイルス感染拡大による影響のため、年度末の発表会等の機会をもつことができなかった。長期休暇に関しては特別プログラムを計画し、電車での外出や美術館や温泉施設に出かけるなどの活動を提供した。</p>		
	<p>(2) 医療的ケアが必要なお子さんの受け入れ 医療的ケアが必要なお子さんの活動の場所を広げられるよう、環境整備やBeeとの連携など支援体制を整え受け入れを進めてきた。今年度は医療的ケアが必要なお子さん3名を受け入れ、主治医やご家庭のほか、関係機関と連携のうえ、安全に活動ができるように支援を行った。</p>		
7. 単年度事業等	なし		

事業報告書【令和4年度】			
事業所名	こども発達支援センター B e e	サービスの種類	児童発達支援 保育所等訪問支援
1. 総括	<p>通所する子どもたちの支援として、日常生活における基本的動作の習得や、集団生活に適応することができるような集団活動を提供し、身体及び精神の状況並びにその子の置かれている環境に応じて適切な指導及び訓練を実施した。また、保護者に対し育児相談などの子育て支援も行ってきた。</p> <p>保育所等訪問支援では、地域の保育園、幼稚園、小学校などを併用する子どもに対し、子どもへの直接支援や保育士、教員に対しアドバイスを行った。</p> <p>新型コロナウイルス感染症関連で、蔓延防止等重点措置の期間中は利用児の通所が1日10～12名程度であった。また、8月に利用児童から感染者が出たことで、3日閉所し、その週の利用児童が減少したこと等により、事業運営に大きな影響があった。予定していた保育参観や運動会などの行事も、感染状況を鑑み中止にしたり規模を縮小するなどした。</p>		
2. 事業の内容	(1) 個別支援計画に沿った障害福祉サービス等の提供 個別支援計画に沿った児童発達支援および保育所等訪問支援を行った。		
	(2) 個別支援計画の作成 児童発達支援計画を作成し、6か月毎にケア会議を開催した。		
	(3) その他の事業 地域の保育所、小学校等への移行支援を行なった。また、市内保育園、幼稚園の保育士の施設見学の受入を行い、対象児童への支援の引継ぎをおこなった。		
3. 職員数	管理者1名、児童発達支援管理責任者1名、保育士8名、看護師3名、訪問支援員2名		
4. 利用者実績	児童発達支援 1日平均17名(定員25名) ※契約者数39名 保育所等訪問 年間100件 ※契約者数31名		
5. 開設時間	月曜日～土曜日 午前9:00～午後4:00		
6. 活動/作業内容	(1) 基本的な生活習慣の形成に関する支援の実施 アセスメントを行い、トイレトレーニングや食事等の基本的な生活習慣の形成に関する支援を行った。		
	(2) 社会性や対人関係に関する支援の実施 集団生活の中での遊びを通して、社会性や対人関係に関する支援を行った。		
	(3) 運動や健康に関する支援の実施 粗大運動を取り入れた活動の提供や、看護師による健康管理などの支援を行った。また、月1回土曜日にたいそう教室、なかよし教室を開催した。 なかよし教室：7回実施、たいそう教室：7回実施。		
	(4) みんなの広場の実施(家族参加のお楽しみ会) ・7月16日 なつまつり(30家族) ・10月22日 運動会(31家族) ・12月17日 クリスマス会(23家族) ・3月25日 卒園証書授与式(14家族)		
	(5) 保育所等訪問支援の実施 登録31名の児童に対し、児童の所属する場所において個別および担当者への支援を行った。 ・保育園：5園・幼稚園：5園・認定こども園：5園 ・公立小学校：11校・特別支援学校：2校		
7. 単年度事業等	なし		